

Step4 | 計画策定(基本計画・実施計画)の段階

ポイント15【計画の枠組みづくりの前の留意事項】



行政の既存福祉プランと地域福祉活動計画との位置づけの整理。
市町村合併の前にこそ、合併後の自分たちの“まち(地区)”のあり方を計画で明確化しておく視点。

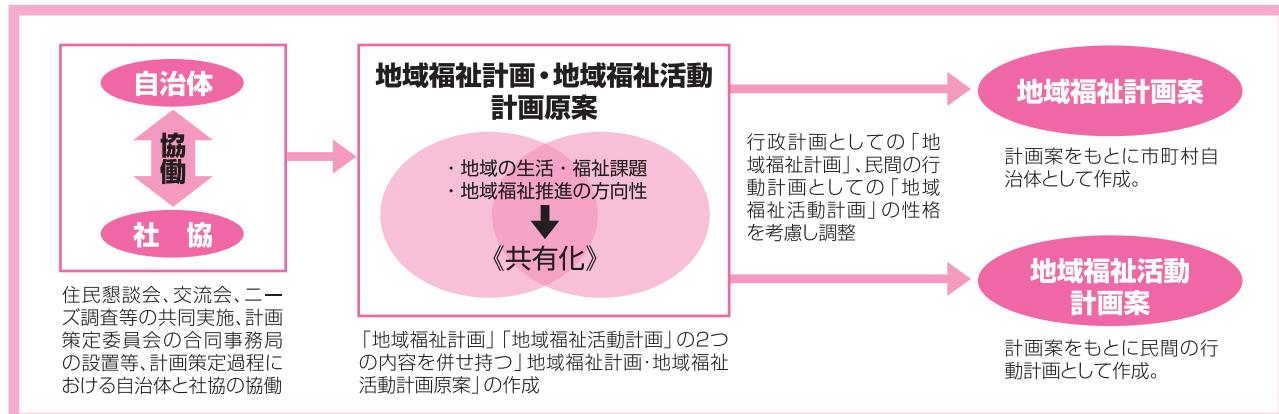
👉 各種行政計画、特に「市町村地域福祉計画」との整合性

具体的な計画の枠組みを策定する際には、行政の既存の福祉プランを掌握し、社協の地域福祉活動計画で記載していく各項目が行政計画のどこに位置づけられるのかを説明できるよう、明文化作業の段階から留意しておく必要があります。

特に、「市町村地域福祉計画」（H15.4.1施行）は、社協の地域福祉活動計画と目指す目標や策定プロセス・ノウハウに共通する部分が多いため、随所に類似する項目が列挙されることが予測されます。

よって、行政の地域福祉計画の策定の動きに十分に留意するとともに、両計画間の整合性を公私協働の視点で整理しておくことがポイントと言えます。

【参考】地域福祉計画と地域福祉活動計画の一体的策定の考え方



[参考資料:「地域福祉活動計画策定指針」／全社協 発行]

👉 市町村合併と計画策定の関係

計画策定については、「合併後に立てればよいのではないか」という声もよく聞かれますが、市町村が合併したとしても理想とされる計画の策定圏域が、“地域福祉圏”（例:地区社協・学区単位等）であることに変わりはなく、その意味では合併前から各市町村社協ごとで着手することは無駄な作業ではないと言えます。

むしろ合併し、自治体エリアが広域化する前だからこそ、自分たちの“まち(地区)”をどうしていきたいのか、計画に盛り込み、そうした住民意志の反映にもとづく具体的なビジョンを持って、合併を考えていくことが大切なポイントといえるのではないでしょうか。



ポイント16【計画構成・体系の理解】

計画の構成・体系、①基本構想、②基本計画、③実施計画、の基本的な理解とイメージを持っておく。

計画の各項目を明確にしていく前に、計画自体の構成・体系についての基本的な理解とともに、計画の全体像をあらかじめイメージしておく必要があります。

① 基本構想（基本理念）

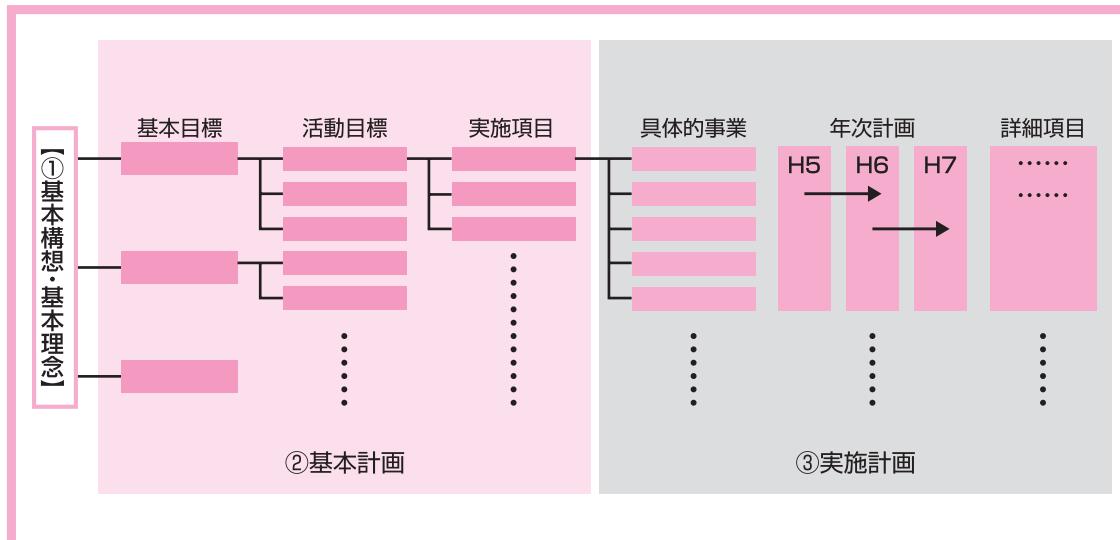
計画策定における基本理念、いわゆる「自分たちのまちをどのようなまちにしていくたいのか」という将来にわたる“夢”的部分を明記していく部分です。その際、この計画が地域福祉の理念であるノーマライゼーションにもとづき、かつ地域住民や当事者、また住民の生活に関わる幅広い関係者の協議の積み上げによって策定されたものであることを明確にしておくことがポイントと言えます。

② 基本目標及び活動目標

「① 基本構想」で掲げた“夢”的実現に向け、必要となる施策や取り組みの方向性をスローガン的に明記したものを“基本目標”とし、さらにその基本目標の達成に向けた具体的な取り組み事項を“活動目標”として設定します。(図2参照)。

「基本目標及び活動目標」の設定は、地区住民福祉座談会や当事者・関係者ヒヤリング、アンケート調査等から浮かび上がった地域の現状・課題のとりまとめと整理作業(ポイント⑭参照)を経て設定されるべきもので、この作業段階でいかに地域住民・関係者等の参画と確認を促せるかが重要なポイントといえます。

計画全体構成フロー図

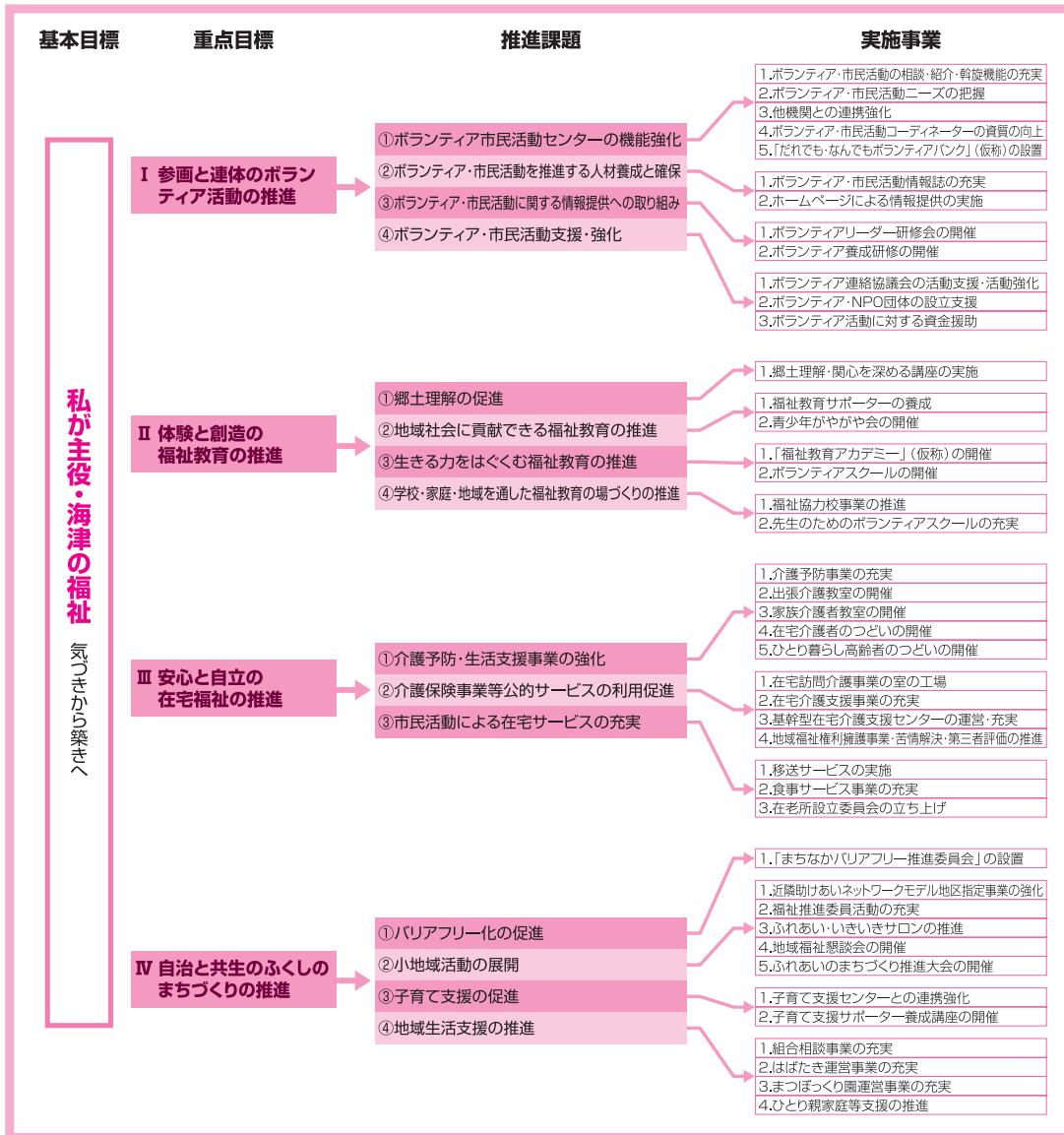


③ 実施計画（到達目標含む）

「② 基本目標・活動目標」に向けて、具体的な事業・取り組みを実際に年次計画(どんな事業を／いつまでに／どの団体が／どの財源で)に落とし込んだものが実施計画です。この段階で重要なことは、実施計画が“絵に描いた餅”とならぬよう実施体制や財源面を十分に考慮しながら策定することです。

その意味では、「② 基本目標・活動目標」の設定段階での項目の優先順位化・シンプル化を十分に図っておくと同時に、実施計画においては、各項目ごとに到達(数値)目標・整備目標を設定することが重要なポイントと言えます。

【参考】基本計画体系図～先進社協の実践例より



【参考】実施計画サンプル～先進社協の実践例より

重点目標 I 参画と連体のボランティア活動の推進

①「ボランティア・市民活動センター」の機能強化

△=準備 ○=実施 →=継続

事業名	新規/継続	実施主体	財源	実施目標	実施年度				
					H15	H16	H17	H18	H19
ボランティア・市民活動の相談・紹介・斡旋の充実	継続	社協(自主事業)	町補助金	市民活動の分野に於ける相談紹介機能を充実する	△	○	→		
ボランティア・市民活動ニーズの把握	継続	社協(自主事業)	町補助金	ボランティア・市民活動分野における、ニーズの把握・管理体制を整備する	△	○	→		
他機関との連携強化	継続	社協(自主事業)	町補助金	関連機関と定期的な情報交換、事業協力・共催をする	○	→			
ボランティア・市民活動コーディネーターの資質の向上	継続	社協(自主事業)	町補助金	スーパービジョンの体制整備を図る		△	○	→	
「だれでも・なんでもボランティアバンク」(仮称)の設置	継続	社協(自主事業)	町補助金	TEL・FAX・E-mailなどでも登録を受け付ける 登録人数目標1000人/H19年度	○	→			

[参考資料:海津町社協(岐阜県)「アクア・わくわくプラン21」／H15社協活動全国会議当日資料より]

Step 4

計画策定(基礎計画・実施計画)の段階



ポイント17 【基本目標の設定までの具体的な作業プロセス】

地域住民の「生活ニーズ」を起点としたボトムアップの作業がポイント。

👉 「生活のなかでの困りごと」に対する解決策を集約していく

基本目標は、次の3つの段階を踏まえて下からの積み上げ(ボトムアップ)により、つくりあげていく。

① ニーズ把握とその解決策

まず住民座談会や当事者・関係者へのヒヤリング等で把握した「生活上の困りごと【ニーズ】」のひとつひとつについて、「現在どう対応しているのか【現状】」を確認し、そして各「困りごと」の解決のためにはどのような「取り組み・制度・サービス【課題解決策】」が必要であるのかを住民・関係者で考え、全て列記していく。(19ページ参照)

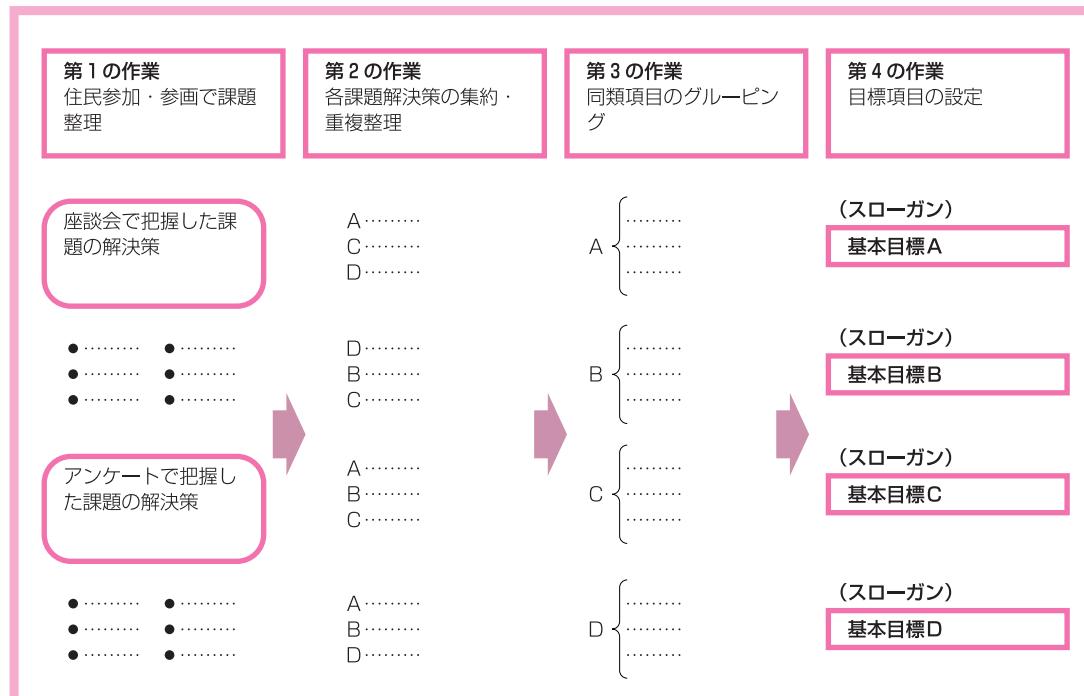
② 解決策の整理・集約化

そして、全ての【課題解決策】が出揃った段階で、重複するものを取り除き、またカードワーク(KJ法)等で類似する項目の集約化(グルーピング)を行っていく。

③ 目標となるスローガンの考案

集約化された項目に対して、総称される項目をスローガン的に設定し、それを基本目標としていきます。基本目標の設定とは、こうした地域住民一人ひとりの生活ニーズを、そこに住むより多くの住民・関係者で確認し、その解決策を考え、集約化していく作業であり、いわば、住民参加の福祉のまちづくりに向けた協議の積み上げ(ボトムアップ)作業と言うことができます。

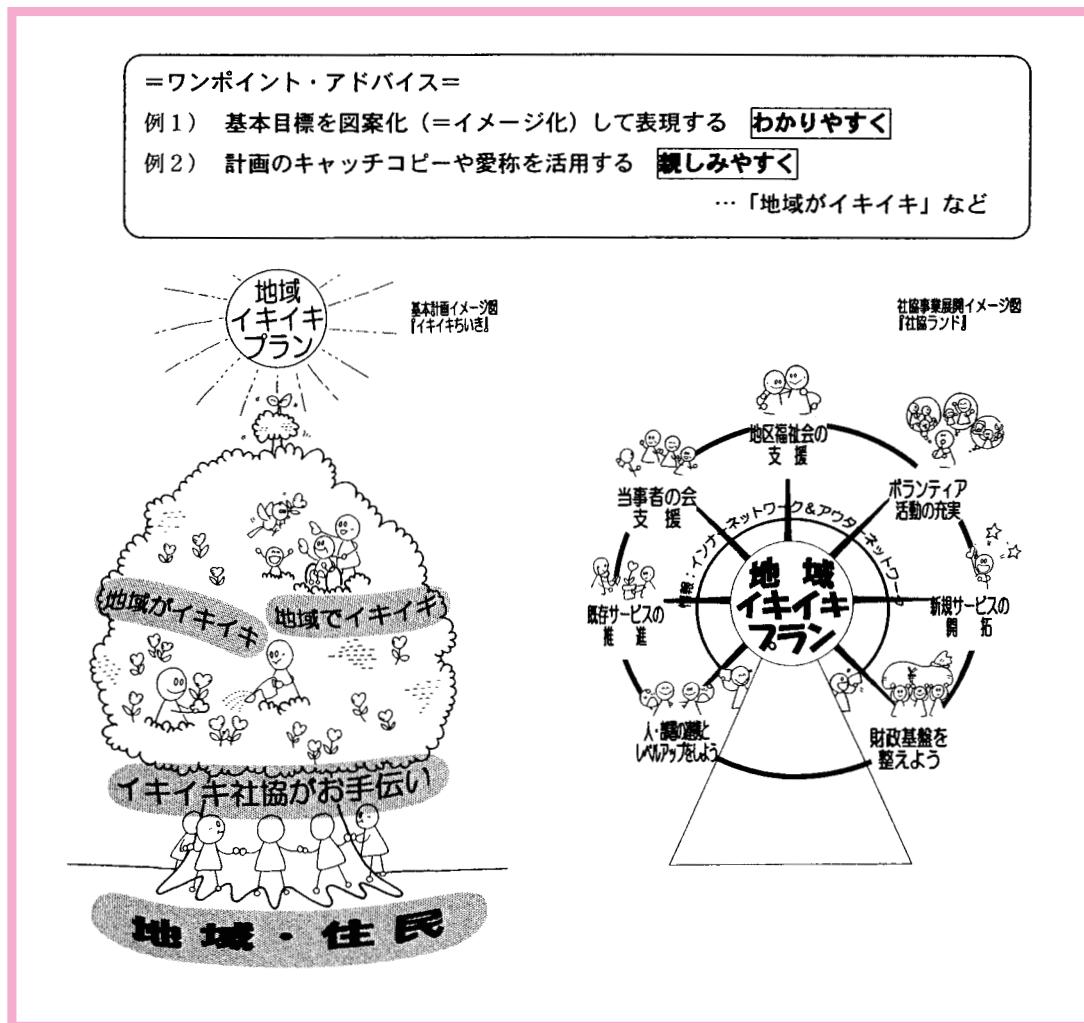
【参考】課題整理から基本目標(スローガン)の設定



👉 スローガン（基本目標）は、よりわかりやすく、親しみやすいものに

基本目標は、今後住民参加ですすめる地域福祉の基本方針・スローガンであり、その意味では、なるべく専門用語は避け、住民にわかりやすく、親しみやすい言葉（方言・キャッチコピー）で表現することが、住民に見える計画にしていくひとつのポイントです。

【参考】基本目標（スローガン）の設定～先進社協の実践例より



[参考資料:「地域福祉活動計画 策定のてびき」／大阪府社協 発行]